

令和5年度
広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

令和7（2025）年3月

広島県教育委員会

例 言

1 本書は、広島県教育委員会が令和5年度に国庫補助を受けて実施した県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）事業に係る成果の報告書である。

2 本事業は、道路建設・住宅建設・農業基盤整備等、今後急速に開発が進展すると予想される地域及び既に開発計画が立案されている地域について、遺跡の分布調査（現地踏査及び試掘・確認調査）を行い、保存対策に資する目的で実施したものである。

具体的には、①市町文化財部局が単独で対応することが困難な業務（大規模又は広域事業・重要遺跡の取扱いなど）への対応と、②専門職員未配置の市町文化財部局に対する指導・助言・援助の観点から、各開発事業者等あるいは市町文化財部局からの協議に基づいて県内各地の開発計画地内の現地踏査や試掘・確認調査を実施し、埋蔵文化財蔵地の有無、範囲、内容等の確認を行うとともに、保存方法に関する協議を行った。

3 第2、11図のトレンチ位置図の基図は、各開発事業者から提供された地形図・工事平面図を使用した。なお、工事平面図については、原則として調査当時のものを使用しているため、図中の開発事業範囲や工事設計等は、その後変更されている場合がある。

4 第5図8、第6図18・28の画像は、アプリケーション「ひかり拓本」で作成した。

5 本事業に係る現地調査から報告書作成に至る業務は、広島県教育委員会事務局管理部文化財課が行った。

担当者は次のとおりである。

現地調査・所見作成（令和5年度）	梶 耕司（埋蔵文化財係長）、猪熊はるの（主任）、森本直人（主任）、和田麻衣子（会計年度任用職員）
資料整理（令和5年度）	森本直人、和田麻衣子

6 本書は、森本が執筆・編集した。

7 調査の実施に当たっては、各開発事業者、地権者及び関係市町文化財部局等の協力を得た。

8 本書作成に係る資料類については、図面・写真類は広島県教育委員会事務局管理部文化財課（広島市中区基町9番42号）、出土遺物は広島県立埋蔵文化財センター（広島市西区観音新町四丁目8番49号）で保管している。

目 次

第1章 事業の概要	1
第2章 試掘・確認調査の成果	
1 広島県庁舎敷地有効活用事業に係る確認調査	3
2 新病院建設事業に係る確認調査	19
3 都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘・確認調査	29

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 広島県庁舎敷地有効活用事業に係る確認調査地点位置図 (1:25,000)	3
第2図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 トレンチ位置図 (1:1,000)	4
第3図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 1T・3T平面図及び土層断面図 (1:40)	11
第4図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 2T・4T・5T平面図及び土層断面図 (1:60)	12
第5図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 出土遺物1 (8は1:4、1~7は1:3)	13
第6図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 出土遺物2 (28は1:4、28以外は1:3)	14
第7図 新病院建設事業に係る確認調査地点位置図 (1:25,000)	19
第8図 新病院建設事業計画地 トレンチ位置図 (1:1,500)	20
第9図 新病院建設事業計画地 トレンチ土層断面図 (1:40)	22
第10図 都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘・確認調査地点位置図 (1:25,000)	29
第11図 都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地トレンチ位置図 (1:1,000)	30
第12図 都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地トレンチ土層断面図 (1:40)	32

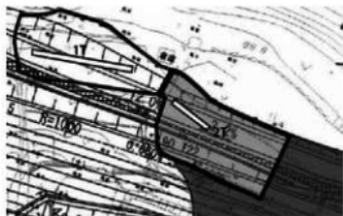
表 目 次

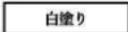
表1 令和5年度に確認した埋蔵文化財包蔵地	1
表2 令和5年度に実施した現地踏査等の概要	1~2
表3 令和5年度に実施した試掘・確認調査等の概要	2
表4 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 各トレンチ所見	8~9
表5 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 検出遺構一覧表	9
表6 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 陶磁器・瓦質土器観察表	13
表7 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 瓦観察表	13
表8 新病院建設事業計画地 各トレンチ所見	23~24
表9 都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 各トレンチ所見	33~34

図版目次

図版1	a	1 T 掘削開始状況 (東から)		
	b	1 T北壁 (南から)	c	1 T SX49 (北から)15
図版2	a	2 T西半 (東から)		
	b	2 T東側北壁 (最下層が近代遺構面、西から)		
	c	3 T (南西から)	d	3 T北壁 (南から) 16
図版3	a	4 T (東から)	b	4 T北壁 (西から)
	c	5 T近代遺構面検出状況 (北から)		
	d	5 T近世遺構面1検出状況 (南から) 17		
図版4	a	5 T掘削終了状況 (北から)		
	b	5 T掘削終了状況 (南から)		
	c	調査後全景 (東から) 18		
図版5	a	1~4 T 調査前全景 (西から)		
	b	5・6 T調査前全景 (西から)25		
図版6	a	1 T (南西から)	b	1 T東壁Ⅲ a・Ⅲ b層 (西から)
	c	1 T東壁 (西から)26		
図版7	a	2 T (南から)	b	2 T東壁 (南西から)
	c	3 T (南から)	d	3 T東壁 (西から)27
図版8	a	4 T (南西から)	b	4 T東壁 (南西から)
	c	5 T (南から)	d	5 T東壁 (西から)28
図版9	a	16 T調査前全景 (北西から)		
	b	17・18 T調査前全景 (北西から)35		
図版10	a	16 T (北西から)	b	16 T南壁 (北西から)
	c	17 T (東から)	d	17 T南壁 (東から)36
図版11	a	18 T (東から)	b	18 T南壁 (東から)
	c	19 T (南から)	d	19 T東壁 (南から)37
図版12	a	20~23 T 調査後全景 (南から)		
	b	20~23 T 調査後全景 (西から)38		
図版13	a	20 T (東から)		
	b	20 T南壁 II a層下部の配管痕跡 (東から)		
	c	21 T (南東から)	d	21 T東壁 (南から)39
図版14	a	22 T (東から)	b	22 T南壁 (北から)
	c	23 T (北東から)	d	23 T南壁 (北から)40

トレンチ位置図凡例



	白塗り	トレンチ
		試掘・確認調査により確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲
		既周知の埋蔵文化財包蔵地
		試掘・確認調査の結果埋蔵文化財包蔵地ではないと確認した範囲

第1章 事業の概要

1 令和5年度に実施した分布調査の概要について

道路建設等の各種開発事業に先立つ現地踏査や現地協議等は、表2に掲げた28件である。

また、試掘・確認調査は、表3に掲げた3事業3地点、合計約4,879.94㎡である。

これらの分布調査及び試掘・確認調査の結果、表1に掲げた埋蔵文化財包蔵地を確認した。試掘・確認調査の内容や確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲等の詳細については、次章に記載する。

表1 令和5年度に確認した埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	市町名	時代	種類	面積(㎡)	確認方法	開発事業種類	備考
広島城跡・陸軍関連遺跡(西練兵場跡)	広島市	近世・近代	城館・その他	1,736.94	確認調査	その他建物	

表2 令和5年度に実施した現地踏査等の概要

No	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
1	福山市	道路	広島県	4/4	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
2	安芸高田市	河川	広島県	4/5	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
3	安芸高田市	農業基盤整備事業	広島県	4/21	篠熊はるの 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
4	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	5/11	昇 耕司 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
5	東広島市	道路	国土交通省	5/30	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
6	東広島市・広島市	新規発見遺跡の確認	-	6/16	昇 耕司 篠熊はるの	現地踏査
7	竹原市	道路	広島県	6/21	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
8	東広島市	道路	広島県	6/23	昇 耕司 篠熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
9	世羅町	道路	広島県	6/27	篠熊はるの 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
10	竹原市	道路	広島県	7/18	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
11	大竹市	個人住宅	個人	10/30	沖 憲明 篠熊はるの	専門職員未配備市町への支援(試掘調査)
12	熊野町	その他建物	民間企業	10/30	沖 憲明 篠熊はるの	専門職員未配備市町への支援(現地踏査)
13	府中町	その他建物	民間企業	11/2	篠熊はるの	専門職員未配備市町への支援(工事立会)
14	東広島市	道路	広島県	11/7	篠熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
15	竹原市	道路	広島県	11/8	昇 耕司 篠熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)
16	世羅町	道路	広島県	11/20	篠熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議(現地協議)

No	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
17	大竹市	個人住宅	個人	11/22	猪熊はるの	専門職員未配備市町への支援（工事立会）
18	福山市	港湾	広島県	11/28	猪熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
19	安芸太田町	道路	安芸太田町	12/1	昇 耕司 猪熊はるの	専門職員未配備市町への支援（現地踏査）
20	熊野町	その他建物	民間企業	12/5～ 12/6	猪熊はるの 和田麻衣子	専門職員未配備市町への支援（試掘調査）
21	府中市	道路	広島県	1/19	森本直人 猪熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
22	東広島市	道路	国土交通省	1/25	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
23	広島市	その他建物	広島県	2/6	森本直人 猪熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（確認調査事前協議）
24	府中町	その他建物	民間企業	2/9	森本直人	専門職員未配備市町への支援（確認調査の視察）
25	広島市	その他建物	広島県	2/14	森本直人 猪熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（確認調査事前協議）
26	広島市	その他建物	広島県	2/19	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（確認調査事前協議）
27	東広島市	道路	広島県	2/22	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘・確認調査事前準備）
28	東広島市	道路	広島県	3/4	森本直人 猪熊はるの	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘・確認調査事前協議）

表3 令和5年度に実施した試掘・確認調査等の概要

No	用務地	調査原因	原因者	調査対象面積	調査期間	担当者名	用務内容
1	広島市	その他建物	広島県	1,736.94㎡	7/3～7/7、 7/10～7/13	森本直人 猪熊はるの 和田麻衣子	1地点の確認調査を実施し、1か所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。
2	広島市	その他建物	広島県	約1,393㎡	2/26～2/28	森本直人 猪熊はるの	1地点の確認調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。
3	東広島市	道路	広島県	約1,750㎡	3/11、3/13 ～3/15	森本直人 猪熊はるの	1地点の試掘・確認調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。
合計		3事業		約4,879.94㎡			3地点の試掘・確認調査を実施し、1か所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。

第2章 試掘・確認調査の成果

1 広島県庁舎敷地有効活用事業に係る確認調査

所在地：広島市中区基町11番6

調査目的：広島県庁舎敷地有効活用事業に係る埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格・内容等の概要把握

開発事業者：広島県

調査年月日：令和5年7月3日～7月7日及び7月10日～7月13日

調査対象面積：1,736.94㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地（陸軍関連遺跡〔西練兵場跡〕、広島城跡）を確認した。

調査概要：

確認調査の経過

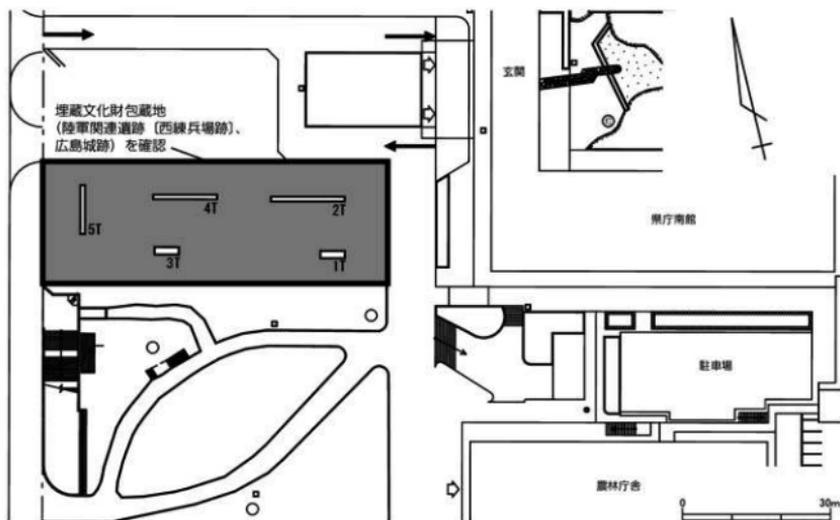
開発事業計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地（西練兵場跡、広島城跡）のため、確認調査の対象となった。開発事業計画地のうち、地下へ影響が及ぶ恐れのある建物建設予定範囲について、既存の排水管の位置を考慮したうえで、5か所のトレンチを設定した。

確認調査地点の地歴

本調査地点周辺において、中世以前の遺構等はほとんど見つかっておらず、広島城築城以前の様相は不明な部分が多い。広島城築城後は、毛利輝元による築城当初の縄張りが明確でなく、その後の福



第1図 広島県庁舎敷地有効活用事業に係る確認調査地点位置図（1：25,000）
（国土地理院1：25,000地形図「広島」図幅を使用）



第2図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地トレンチ位置図(1:1,000)

高正則によってかなり大規模な築造が行われたものと考えられている⁽¹⁾。信頼性が高いとされる広島城最古の絵図『安芸国広島城所絵図』⁽²⁾は正保3(1646)年に江戸幕府へ提出された。この絵図を参照すると、広島城は本丸と土橋で結ばれた馬出しとしての二の丸があり、これらをめぐる内堀の外側の東・南・西面が中堀で囲まれた三の丸となり、さらにその外側に外堀で囲まれた惣構が巡る典型的な環郭式の城として描かれている。本調査地点は南面の惣構部分に当たり、すなわち広島城内の南部分に位置する。本調査地点が想定される場所には「待町」と描かれている。

文禄3(1594)年から慶長2(1597)年頃の様子を描いたとされる『芸州広島城町割之図』⁽³⁾では、本調査地点の想定箇所に「三吉」と描かれている。同じく毛利氏時代の慶長2(1597)年頃を描いたとされる『知新集』所収の「毛利氏時代城郭内の図」⁽⁴⁾では、「三好」と描かれている。また、福島氏の時代の絵図であり、慶長18(1613)年以前の内容とされる『知新集』所収の「福島氏時代城郭内の図」⁽⁵⁾では、「福島藤右エ門」または「村上彦右エ門」と描かれている部分にあたる。さらに浅野氏時代の絵図であり、寛保3(1743)年以降で宝暦4(1754)年ごろまでの様子を描いたとされる『家中屋敷割図』⁽⁶⁾では「上田主水向屋敷」と描かれている。以上のように、主要な絵図を参照したところ、いずれも本調査地点は武家屋敷として描かれており、広島城築城から幕末に至るまで、武家屋敷が存在した場所と考えられるようである。

明治時代に入り、明治8(1875)年には鎮台練兵場(のちの西練兵場)として整備された。この西練兵場は広大な敷地(23万㎡)を有し、軍事教練の傍ら、軍の許可があれば博覧会等のイベントも行われたようである。本調査地点は、西練兵場の南西部にあたる。

そして、終戦後の昭和31（1956）年に広島県庁第一駐車場として整備された。

基本層序

基本層序は次のとおりとする。西練兵場以前の遺構面が少なくとも3面あると考えられる。

I層…県庁第一駐車場整備に伴う造成土。

II層…戦後以降の堆積土もしくは整地土。ガラス細片や炭化材を含む。

III層…III層上面を近代遺構面と呼称する。西練兵場に関連する整地層である。灰白色で非常に固くしまる。広島城跡太田川河川事務所地点や広島城跡八丁堀地点の記録保存調査で検出されている西練兵場の整地層と類似したものである。近代遺構面で検出した遺構からは昭和初期と考えられる遺物が見つっている。

IV層…IV層上面を近世遺構面1と呼称する。土層中に陶磁器・瓦などを含む。

V層…V層上面を近世遺構面2と呼称する。V層上部に陶磁器・瓦などを少量含む。

VI層…自然堆積層。旧河川由来の水成堆積土。

各トレンチの概要

1 T

埋蔵文化財を確認した。

地表面下約1.0mでIII層を確認した。トレンチ東側のIII層上面（近代遺構面）では、一辺0.6m大の敷石と長辺0.4m大のレンガを並べたSX49を検出している。トレンチ西側のIII層上面（近代遺構面）では、直径1m以上の樹木を検出した。そのため、これより深いところは樹木による攪乱を受けていると判断し、トレンチ西側の掘削はIII層で停止した。

トレンチ東側のIV層上面（近世遺構面1）では溝状遺構（SD50）を検出した。さらにIV層を掘り下げたところ、一辺20～30cm程度、厚さ10cm程度の扁平な石が並べられた石列状遺構を検出したが、水が急激に湧き出てきたため、詳細な確認はできなかった。また、湧水によってトレンチ壁面が崩落する恐れもあったため、これ以上の掘削を停止した。

以上のことから、地表面下約1.0mで確認したIII層上面を近代遺構面、IV層上面を近世遺構面1、さらにIV層を掘り上げて確認した石列状遺構の面を近世遺構面2と判断した。遺物は近世～近現代にかけての陶磁器、瓦などが出土している。

2 T

埋蔵文化財を確認した。

地表面下約1.1mでIII層を確認した。III層上面（近代遺構面）では溝状遺構や礎石を伴う柱穴などの遺構を検出している。IV層上面（近世遺構面1）では溝状遺構や柱穴などを検出している。トレンチ西端では屋敷地を区画する溝の可能性があるSX36を検出した。V層上面（近世遺構面2）では遺構を検出していないが、上部で瓦片が少量出土している。

V層以下の掘削及びSX36の性格を精査しようとしたが、2 T調査中に降った大雨の影響により、

南北の両壁面が大きく崩れ、周囲の雨水がトレンチ内部に流れ込む状態となった。そのため、SX36の詳細な確認は不可能であった。また、トレンチ壁面の崩落をさらに引き起こす可能性があったため、V層以下の掘削も中止した。

以上のことから、地表面下約1.1mで確認したⅢ層上面を近代遺構面、Ⅳ層上面を近世遺構面1、Ⅴ層上面を近世遺構面2と判断した。遺物は近世～近現代にかけての陶磁器、瓦質土器、瓦、鉄製品（鏝、用途不明製品）、石製品（砥石）などが出土している。

3 T

埋蔵文化財を確認した。

地表面下約0.9mでⅢ層を確認した。ただし、3 T西半ではⅡ層（戦後以降の整地土）によって削平を受けている。Ⅳa層上面（近世遺構面1）では柱穴を確認した。Ⅴ層上面（近世遺構面2）では遺構を検出していないが、上部で瓦片が少量出土している。

V層以下を約0.5m程度掘り下げたが、砂質土が堆積している状況だった。そのため、V層以下を旧河川由来の自然堆積土と判断し、掘削を停止した。以上のことから、地表面下約0.9mで確認したⅢ層上面を近代遺構面、Ⅳa層上面を近世遺構面1、Ⅴ層上面を近世遺構面2と判断した。遺物は近世～近現代にかけての陶磁器、ガラス片などが出土している。

4 T

埋蔵文化財を確認した。

地表面下約0.9mでⅢ層を確認した。Ⅲ層上面（近代遺構面）及びⅣa層上面（近世遺構面1）で柱穴を検出している。また、Ⅴ層上面（近世遺構面2）では0.1m大の石が3点並ぶ石列状遺構を確認した。

V層以下を約0.4m程度掘り下げたが、砂質土およびグライ化した層が堆積している状況だった。そのため、V層以下を旧河川由来の自然堆積土と判断し、掘削を停止した。

以上のことから、地表面下約0.9mで確認したⅢ層上面を近代遺構面、Ⅲ層直下にあるⅣa層上面を近世遺構面1、さらにⅤ層を近世遺構面2と判断した。遺物は近世から近現代にかけての陶磁器、瓦などが出土している。

5 T

埋蔵文化財を確認した。

地表面下約0.6mでⅢ層を確認した。Ⅲ層上面（近代遺構面）では柱穴や土坑を検出している。5 T南半はⅡ層（戦後以降の整地土）でⅢ層が削平されていた。Ⅳ層上面（近世遺構面1）では柱穴や土坑を検出している。Ⅴ層上面（近世遺構面2）では遺構を検出していないが、上部に瓦片を少量含んでいる。

V層以下を約1.0m掘り下げたが、砂質土およびグライ化した層が堆積している状況だった。そのため、V層以下を旧河川由来の自然堆積土と判断し、掘削を停止した。

以上のことから、地表面下約0.6mで確認したⅢ層上面を近代遺構面、Ⅲ層直下にあるⅣ層上面を近世遺構面1、さらにⅤ層上面を近世遺構面2と判断した。遺物は近世～近現代にかけての陶磁器、瓦質土器、瓦、用途不明の鉄製品、革製の短刀鞘などが出土している。

出土遺物の評価にあたり、次の機関・方々から専門的な助言をいただいた。

公益財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課、赤松和佳、石垣敏之（敬称略）

註

(1) 広島城や西練兵場に関する記載は次の文献を参考とした。

『広島城跡太田川河川事務所地点－広島市中区八丁堀所在－』財団法人広島市文化財団、2006年。

『広島城跡八丁堀地点発掘調査報告書』株式会社バスコ・財団法人広島市文化財団、2010年。

(2) 『広島城下町絵図集成』広島市立中央図書館編、1990年。

(3) (2)と同じ

(4) (2)と同じ

(5) (2)と同じ

(6) (2)と同じ

表4 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 各トレンチ所見

トレンチ No	規模(長さ×幅 ×最大深さ、単 位:m)	調査所見
1 T	5.0×1.6×1.3	<北壁> I a 層 灰白色 (10YR8/2) 砕石。駐車場敷設に伴う造成土。 I b 層 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。 I c 層 黄褐色 (10YR5/8) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。 I d 層 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土。駐車場敷設に伴う造成土。 III 層 黄灰色 (2.5Y6/1) 粗粒砂。しまり弱い。上面が近代遺構面。 a 層 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。SD50覆土。土器片・瓦片多く含む。 IV 層 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂 (ぶい黄褐色 [10YR5/4] 細粒砂混じり)。 上面が近世遺構面1。土器片・瓦片含む V 層 黄灰色 (2.5Y6/1) 細粒砂。上面が近世遺構面2。湧水のため掘削停止。
2 T	15.0×1.0×1.9	<北壁> I a 層 灰白色 (10YR8/2) 砕石。駐車場敷設に伴う造成土。 I b 層 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。 I c 層 黄褐色 (10YR5/8) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。 I d 層 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土。拳大の川原石含む。駐車場敷設に伴う造成土。 II 層 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂。戦後堆積土。 a 層 明黄褐色 (10YR6/8) 粗粒砂。SK33・SP41覆土。 b 層 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂。SD43覆土。 III 層 灰白色 (2.5Y7/1) 細粒砂。非常に固くしまる。上面が近代遺構面。 c 層 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂。SX37・SP38・SP44覆土。 d 層 青灰色粘性 (5B6/1) 細粒砂。SX36覆土。 e 層 明黄褐色 (2.5Y7/6) 細粒砂。SX36覆土。 f 層 黄褐色 (2.5Y5/4) 細粒砂。SX36覆土。 g 層 暗青灰色 (5B4/1) 細粒砂。SX36覆土。 h 層 黄灰色 (2.5Y4/1) 細粒砂。SX36覆土。 i 層 暗黄褐色 (2.5Y4/2) 細粒砂。SX36覆土。 IV 層 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂 (ぶい黄褐色 [10YR5/4] 細粒砂混じり)。 上面が近世遺構面1。土器片・瓦片含む。 V 層 黄灰色 (2.5Y6/1) 細粒砂 (明黄褐色 [10YR7/6] 細粒砂混じり)。 上面が近世遺構面2。上層で瓦片含む。
3 T	5.0×1.6×2.0	<北壁> I a 層 灰白色 (10YR8/2) 砕石。駐車場敷設に伴う造成土。 I b 層 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。 I c 層 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土。駐車場敷設に伴う造成土。 II a 層 黒色 (10YR2/1) 粗粒砂。ガラス細片含む。戦後堆積土。 II b 層 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 細粒砂。戦後堆積土。 III 層 灰白色 (2.5Y7/1) 細粒砂。非常に固くしまる。上面が近代遺構面。 a 層 黄橙色 (10YR7/8) 粗粒砂。SP55覆土。 b 層 褐灰色 (10YR5/1) 粗粒砂。性格不明の落ち込み。 IV a 層 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂 (ぶい黄褐色 [10YR5/4] 細粒砂)。上面が近世遺構面1。 IV b 層 明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土。 V 層 黄灰色 (2.5Y6/1) 細粒砂 (上面に黄褐色 [10YR5/6] 細粒砂の固くしまった面が一部あり)。上面が近世遺構面2。 VI a 層 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土。自然堆積土。 VI b 層 褐灰色粘性 (10YR6/1) 砂質土。自然堆積土。 VI c 層 灰白色 (2.5Y7/1) 砂質土。自然堆積土。 VI d 層 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土。自然堆積土。

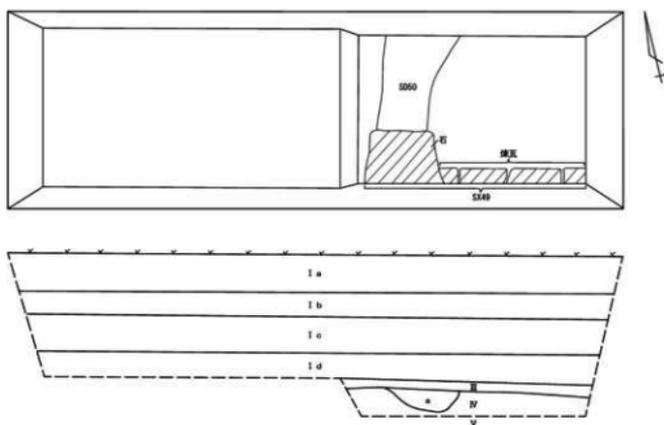
トレンチ No	規模 (長さ×幅 ×最大深さ, 単 位:m)	調査所見
4 T	130×10×17	<p>《北壁》</p> <p>I a 層 灰白色 (10YR8/2) 砕石。駐車場敷設に伴う造成土。</p> <p>I b 層 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。</p> <p>I c 層 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土。駐車場敷設に伴う造成土。</p> <p>II 層 黒色 (10YR2/1) 細粒砂。炭化木片含む。戦後堆積土。</p> <p>III 層 灰白色 (2.5Y7/1) 細粒砂。非常に固くしまる。上面が近代遺構面。</p> <p>a 層 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂。SP21 覆土。</p> <p>IV a 層 明黄褐色 (10YR6/8) 粗粒砂。瓦片・陶磁器片含む。上面が近世遺構面 1。</p> <p>IV b 層 明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土。瓦片・陶磁器片含む。</p> <p>V 層 黄灰色細粒砂 (2.5Y6/1) (明黄褐色 (10YR7/6) 細粒砂)。 上面が近世遺構面 2。上層に瓦片含む。石列 (10cm 大の石 3 点) 確認。</p> <p>VI a 層 褐灰色粘性 (10YR5/1) 砂質土。自然堆積土。</p> <p>VI b 層 暗青灰色粘性 (5BG4/1) 砂質土。グライ層。自然堆積土。</p>
5 T	100×10×20	<p>《西壁》</p> <p>I a 層 灰白色 (10YR8/2) 砕石。駐車場敷設に伴う造成土。</p> <p>I b 層 黄橙色 (10YR7/8) 粗粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。</p> <p>I c 層 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。駐車場敷設に伴う造成土。</p> <p>II 層 黒色 (10YR2/1) 粗粒砂。ガラス片、溶結ガラス片、炭化木片含む。 戦後堆積土。</p> <p>a 層 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂。SP2 覆土。</p> <p>b 層 明黄褐色 (10YR6/8) 細粒砂。SP3 覆土上層。</p> <p>c 層 黒褐色 (10YR2/2) 粗粒砂。SP3 覆土下層。昭和初期の土器含む。</p> <p>III 層 灰白色 (2.5Y7/1) 細粒砂。非常に固くしまる。上面が近代遺構面。</p> <p>d 層 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂。SP5 覆土。</p> <p>e 層 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂。SP8 覆土。</p> <p>f 層 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂。SD9 覆土。</p> <p>g 層 ぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂質土。SP24 覆土。</p> <p>h 層 黒褐色 (10YR3/1) 細粒砂。SP24 覆土。</p> <p>i 層 褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂。SP18 覆土。</p> <p>j 層 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂。SP10 覆土。</p> <p>k 層 褐色 (10YR4/4) 細粒砂。SP14 上層覆土。</p> <p>l 層 灰黄褐色 (10YR4/2) 細粒砂。SP14 下層覆土。</p> <p>IV 層 ぶい黄橙色 (10YR6/4) 細粒砂 (黄橙色 (10YR8/6) 細粒砂混じり)。 上面が近世遺構面 1。</p> <p>V 層 褐色 (10YR4/4) 粗粒砂。上面が近世遺構面 2。</p> <p>VI a 層 褐灰色粘性 (10YR5/1) 砂質土。自然堆積層</p> <p>VI b 層 暗青灰色粘性 (5BG4/1) 砂質土。グライ層。自然堆積層。</p> <p>VI c 層 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。自然堆積層。</p> <p>VI d 層 ぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質土 (明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土混じり)。 自然堆積層。</p> <p>VI e 層 ぶい黄褐色 (10YR7/2) 砂質土。自然堆積層。</p>

表5 広島県庁舎有効活用事業計画地 検出遺構一覧表

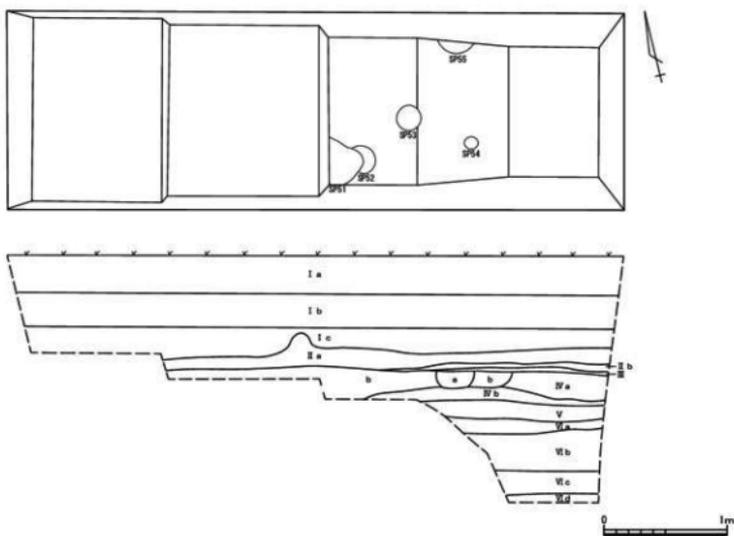
遺構名	検出遺構面	トレンチ No.	備考
SP 1	近代遺構面	5 T	ノップ罫子出土。
SP 2	近代遺構面	5 T	
SP 3	近代遺構面	5 T	サブトレンチで一部掘削。昭和初期の食器など出土。
SP 4	近代遺構面	5 T	砕石をコンクリートで固めた礎石状のものあり。
SP 5	近代遺構面 1	5 T	

遺構名	検出遺構面	トレンチ No.	備考
SD 6	近世遺構面 1	5 T	
SP 7	近世遺構面 1	5 T	
SP 8	近世遺構面 1	5 T	
SD 9	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため掘削。
SP 10	近世遺構面 1	5 T	礎石あり。さらに下層を調査するため完掘。
SP 11	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため掘削。
SP 12	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため完掘。
SP 13	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため完掘。
SP 14	近世遺構面 1	5 T	礎石あり。さらに下層を調査するため掘削。
SP 15	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため完掘。
SP 16	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため完掘。
SP 17	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため完掘。
SP 18	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため掘削。
SP 19	近世遺構面 1	4 T	
SP 20	近世遺構面 1	4 T	
SP 21	近世遺構面 1	4 T	
SP 22	近代遺構面	4 T	
SP 23	近代遺構面	4 T	
SP 24	近世遺構面 1	5 T	さらに下層を調査するため掘削。
SD 25	近代遺構面	2 T	
SP 26	近代遺構面	2 T	
SD 27	近代遺構面	2 T	
SP 28	近代遺構面	2 T	
SP 29	近代遺構面	2 T	礎石あり。
SP 30	近代遺構面	2 T	
SP 31	近代遺構面	2 T	礎石あり。
SD 32	近代遺構面	2 T	
SK 33	近代遺構面	2 T	
SP 34	近世遺構面 1	2 T	
SP 35	近世遺構面	2 T	
SX 36	近世遺構面 1	2 T	屋敷地を区画する溝か。
SX 37	近世遺構面 1	2 T	
SP 38	近世遺構面 1	2 T	
SP 39	近世遺構面 1	2 T	
SP 40	近代遺構面	2 T	
SP 41	近代遺構面	2 T	
SP 42	近世遺構面 1	2 T	礎石あり。
SD 43	近代遺構面	2 T	
SP 44	近世遺構面 1	2 T	
SP 45	近世遺構面 1	2 T	柱根あり。
SP 46	近代遺構面	2 T	
SP 47	近代遺構面	2 T	
SP 48	近代遺構面	2 T	
SX 49	近代遺構面	1 T	
SD 50	近世遺構面 1	1 T	
SP 51	近世遺構面 1	3 T	
SP 52	近世遺構面 1	3 T	
SP 53	近世遺構面 1	3 T	
SP 54	近世遺構面 1	3 T	
SD 55	近世遺構面 1	3 T	
SX 56	近代遺構面 2	1 T	一辺 20～30cm 程度、厚さ 10cm 程度の扁平な石が 3 点並ぶ。
SX 57	近代遺構面 2	4 T	一辺 10cm 大の石が 3 点並ぶ。

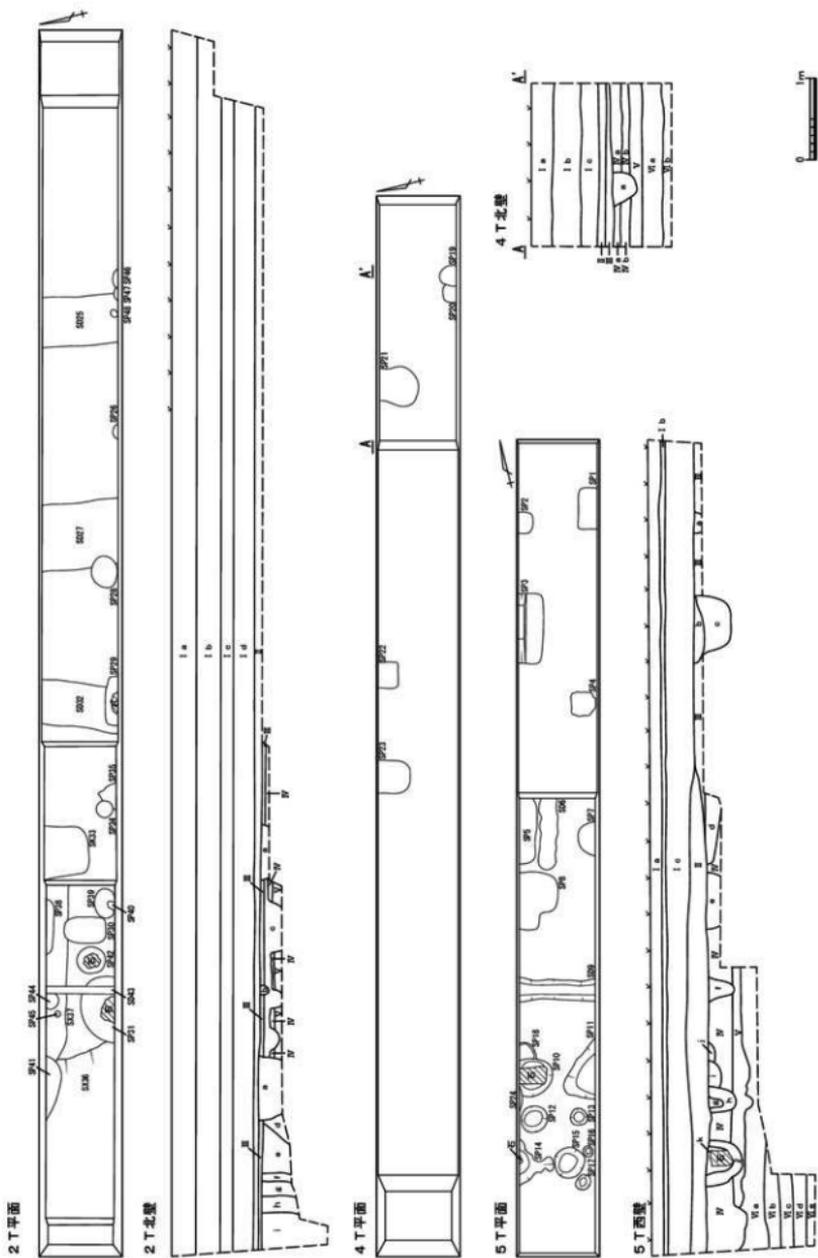
1 T 北壁



3 T 北壁



第3図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 1 T・3 T 平面図及び土層断面図 (1 : 40)



第4図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 2 T・4 T・5 T 平面図及び土層断面図 (1 : 60)

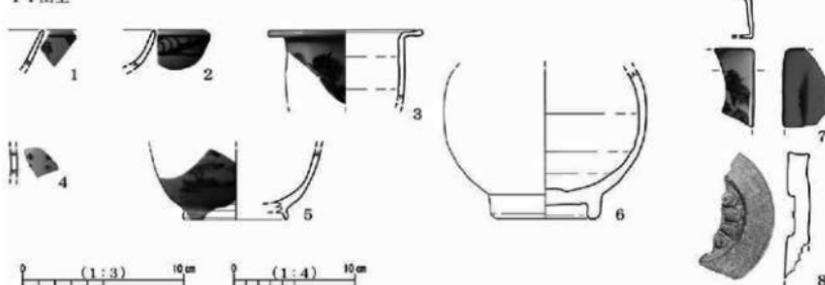
表6 広島県庁舎有効活用事業計画地 陶磁器・瓦質土器観察表 単位はcm、()は復元値

番号	出土地点	種別	器種	口径	器高	底径	特徴など	産地	年代
1	1 T S D50	染付	碗				外面に「寿」	肥前	18c
2	1 T S D50	染付	仏飯具?					肥前	18c後半
3	1 T S D50	染付	瓶	(9.6)			口縁部にアルミナ砂塗布	肥前	19c前半
4	1 T Ⅲ層	磁器	碗?				コバルト染料、銅板転写		明治以降
5	1 T Ⅲ層	染付	碗			(6.4)		肥前	19c後半
6	1 T S D50	染付	瓶			6.2	壺付軸測ぎ、見込に砂溶着	肥前	
7	1 T S D50	染付	水滴					肥前	18c前半
9	2 T S P38	染付	徳利?					肥前	幕末
10	2 T Ⅲ層	染付	碗					肥前	18c
11	2 T S X36	染付	碗			(3.3)	壺付軸測ぎ	肥前	18c前半
12	2 T I b ~ I d 層	染付	碗			(4.4)	壺付軸測ぎ	肥前	18c前半
13	2 T S P42	染付	碗		4.9		壺付軸測ぎ、砂付着 見込に砂付着	肥前系	19c前半
14	2 T Ⅲ層	染付	皿	(12.8)			見込蛇目軸測ぎか	肥前系	19c前半
15	2 T I b ~ I d 層	陶器	碗			4.4	高台内に刻印	肥前	18c
16	2 T Ⅱ ~ Ⅳ層	陶器	不明			(10.0)	高台内に墨書	在地系	
17	2 T S P38	陶器	徳利?			(9.0)	壺付に砂目付着、高台無軸	在地系	幕末か
18	2 T Ⅱ ~ Ⅳ層	陶器	搦鉢			(18.4)		堺	19c
19	3 T b層	青磁染付	碗						19c前半
20	3 T b層	磁器	碗				コバルト染料、アルミナ磁器、口縁部錆軸		明治以降
21	3 T b層	染付	碗			(7.0)	壺付軸測ぎ	肥前系	19c前半
22	4 T IV a ~ IV b 層	染付	蓋付鉢				口縁部軸測ぎ	肥前系	18c
23	4 T IV a ~ IV b 層	白磁	碗	(14.6)	4.8	(5.0)		肥前か	17c後半 ~18c初
24	4 T IV a ~ IV b 層	染付	碗			(6.4)	壺付軸測ぎ	肥前	19c前半
25	5 T S P15	染付	碗					肥前	18c後半
26	5 T S P1	磁器	碁子	3.5	4.8		ノップ碁子。同様のものがもう1点あり。		昭和初か
27	5 T S P3	色絵磁器	皿	(18.2)	4.9	(8.6)	上絵付		昭和初か
29	5 T S P11	瓦質土器	火鉢				獅子をかたどった脚部		

表7 広島県庁舎有効活用事業計画地 瓦観察表 単位はcm、()は復元値

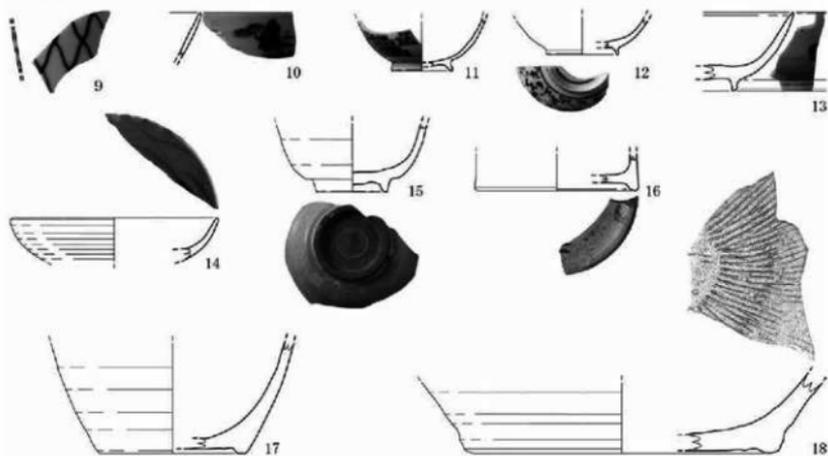
番号	出土地点	種別	瓦当径・長さ	瓦当幅・幅	瓦当厚・厚	備考
8	1 T S D50	軒丸瓦	(13.2)		1.8	珠文か
28	5 T I b ~ I c 層	軒平瓦		3.3	2.3	顎部1.3 唐草文か

1 T 出土

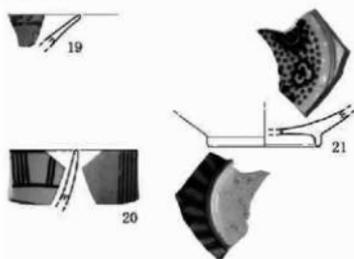


第5図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 出土遺物1 (8は1:4、1~7は1:3)

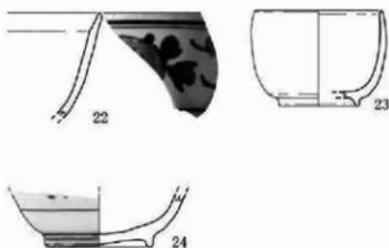
2 T出土



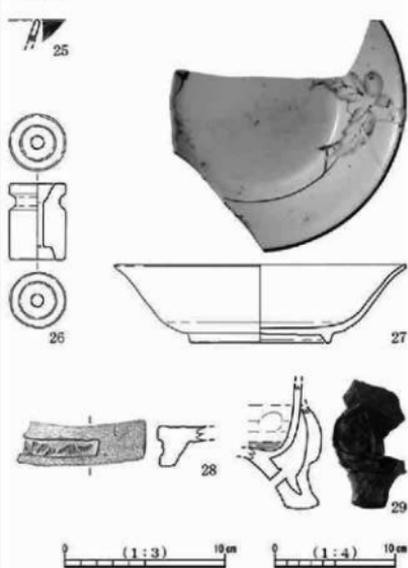
3 T出土



4 T出土



5 T出土



第6図 広島県庁舎敷地有効活用事業計画地 出土遺物2 (28は1:4、28以外は1:3)



a 1T 掘削開始状況 (東から)



b 1T北壁 (南から)



c 1T SX49 (北から)



a 2T西半 (東から)



b 2T東側北壁 (最下層が近代遺構面、西から)



c 3T (南西から)



d 3T北壁 (南から)



a 4T (東から)



b 4T北壁 (西から)



c 5T近代遺構面検出状況 (北から)



d 5T近世遺構面1検出状況 (南から)



a 5T掘削終了状況(北から)



b 5T掘削終了状況(南から)



c 調査後全景(東から)

2 新病院建設事業に係る確認調査

所在地：広島市東区二葉の里三丁目1番1

調査目的：新病院建設に係る埋蔵文化財包蔵地「陸軍関連遺跡（東練兵場跡）」の範囲・性格・内容等の概要把握

開発事業者：広島県

調査年月日：令和6年2月26日～2月28日

調査対象面積：約1,393㎡

調査結果：東練兵場として利用されていた当時の地表の可能性ある土層、東練兵場の造成に伴うもの可能性ある土層及び近代の鉄製埋設管を確認した。

調査概要：

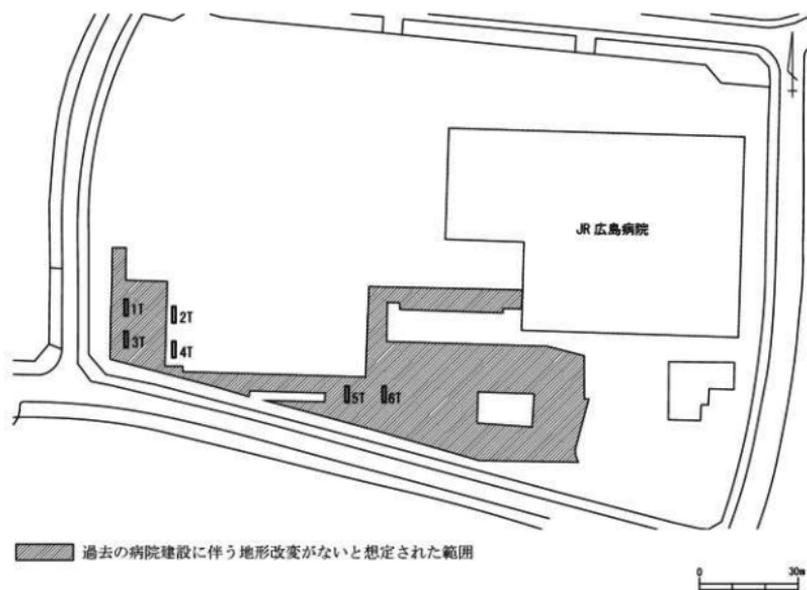
令和5年度に調査依頼を受けた範囲の一部について、確認調査を実施した。

開発事業計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地（陸軍関連遺跡〔東練兵場跡〕）に当たる。令和4年度に広島市は埋蔵文化財取扱い基準を変更し、「明治期以降の主要な軍関係の機関・施設跡」を埋蔵文化財として取扱うことを決定した。この決定を踏まえ、確認調査を実施するものである。

開発事業計画地は、戦後に広島鉄道病院（現：医療法人JR広島病院）が建設されており、平成20年代後半に同病院の建て替えを経て、現在に至る。そのため、病院の建物部分はずでに大規模な地形改変を受けているものと考えられる。よって、今回の調査では戦後以降に病院の駐車場や緑地帯として利用されており、戦前の土層が良好に残っている可能性がある場所にトレンチを5箇所設定した。なお、開発事業計画地周囲の近世以前の状況は不明である。標高は3.0m前後のため、近世以前は海



第7図 新病院建設事業に係る確認調査地点位置図（1：25,000）
（国土地理院1：25,000地形図「広島」図幅を使用）



第8図 新病院建設事業計画地 トレンチ位置図（1：1,500）

域付近であったと考えられる。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても現地表面に伴う造成土が厚く堆積しており、その直下に近現代と考えられる旧地表面や整地層を検出したが、東練兵場跡と関連付けられるような明確な遺構・遺物は確認されなかった。また、近現代の層より下は自然堆積層であった。

基本層序

基本層序は次のとおりである。

- I層…現地表面に伴う造成土。上部にアスファルトや碎石。または、建て替え前の広島鉄道病院に関連する層。
- II層…近現代の旧地表面または整地層。
- III層…東練兵場跡関連の可能性がある旧地表面など。旧地表面は青～黒色土が薄く堆積する。場所は離れるが、西練兵場跡の記録保存調査（広島城跡太田川河川事務所地点や広島城跡八丁堀地点）や確認調査（県庁第一駐車場跡地）で確認されている近代土層（青～黒色の土層）と類似する。しかし、西練兵場跡関連の近代土層は非常に固くしまっていることが特徴であり、III層ではこの特徴があまり見られなかった。また、時期を想定できるような遺構・遺物は無く、確証を得ることはできなかった。

IV層…自然堆積層。砂質土。花崗岩の風化土層や水成堆積土層。

各トレンチの概要

1 T

東練兵場跡と関連付けられるような遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果、現地表面のアスファルト・碎石の下は、1.0m程度の造成土（I a層）が堆積していた。トレンチ北側では現地表面に伴う造成土（I a層）の下から1.0m以上の掘り込み（I b～I d層）と、その最下部に一辺1.0m以上のコンクリートを検出した。コンクリート周囲を50cm程度深掘りしてみたが、厚さは確認できなかった。コンクリートは碎石と混合しており、針金のような金属も含んでいた。また、コンクリート南端部には柱状構造物が打ち込まれたような割れ口を確認できた。1 Tは戦後に建設された広島鉄道病院の建物に近接しており、このコンクリートはその建物の基礎もしくは地盤改良に伴う構造物の可能性が高い。

トレンチ中央および南側では、北側のコンクリート設置に伴う掘り込み（I b～I d層）に切られる形で、平行な土層堆積（II a～III a層）を確認した。特に、外気や雨に長くさらされたことや植生の腐食によって青～黒色化したと考えられる薄い堆積層（III a層）は東練兵場跡の地表面の可能性もある。この層の直下にトレンチを横断する直径5.0cm程度の鉄製配管および配管を設置するための掘り込み（III b層）を確認した。しかし、東練兵場跡と関連付けられるような明確な遺構・遺物は確認できなかった。III a・III b層の下は砂質土であり、自然堆積層（IV a・IV b層）と考えられる。

2 T

東練兵場跡と関連付けられるような遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果、現地表面の碎石の下は、1.5m程度の造成土（I層）が堆積していた。現地表面に伴う造成土（I層）の下には黒色化した薄い堆積層（III a層）があり、東練兵場跡の地表面の可能性もある。III a層の下は鉄パイプを含む近現代の整地層（III b層）が0.7m近く堆積している。IV層は砂質土の自然堆積層である。

3 T

東練兵場跡と関連付けられるような遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果、現地表面のアスファルト・碎石の下は、1.0m程度の造成土（I層）が堆積していた。現地表面に伴う造成土（I層）の下には近現代の地表面（II a層）および整地層（II b層）がある。さらにその下には、上面に木片が多量に混じる暗灰色の薄い堆積層（III a）および固くしまった青灰色土層（III b層）があり、東練兵場跡の地表面の可能性もある。しかし、東練兵場跡と関連付けられるような明確な遺構・遺物は確認できなかった。III b層の下は、砂質土（IV a層）および水分を多く含む黒泥層（IV b層）であり、自然堆積層と考えられる。

4 T

東練兵場跡と関連付けられるような遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果、現地表面のアスファルト・碎石の下は、1.6m程度の造成土（Ⅰ層）が堆積していた。現地表面に伴う造成土（Ⅰ層）の下には近現代の整地層と考えられる暗青灰色土層（Ⅲ層）である。Ⅲ層の上部にトレンチを横断する直径5.0cm程度の鉄製配管がある。鉄製配管は1 Tと同様の性格のものと考えられ、Ⅲ層は東練兵場跡に関連する層の可能性がある。しかし、東練兵場跡と関連付けられるような明確な遺構・遺物は確認できなかった。

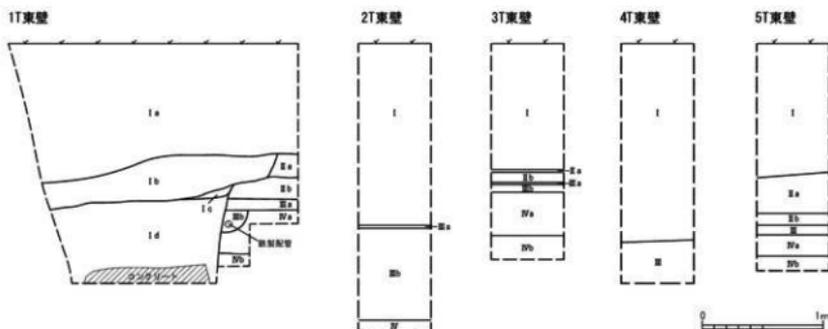
5 T

東練兵場跡と関連付けられるような遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果、現地表面のアスファルト・碎石の下は、1.1m程度の造成土（Ⅰ層）が堆積していた。現地表面に伴う造成土（Ⅰ層）の下には近現代の整地面（Ⅱ a・Ⅱ b層）がある。Ⅱ a層は1.0～2.0 cm大の炭化木片を多量に含み、ガラス片や鉄片も含まれていた。さらにその下には、黒色の薄い堆積層（Ⅲ）があり、東練兵場跡の地表面の可能性はある。しかし、東練兵場跡と関連付けられるような明確な遺構・遺物は確認できなかった。Ⅲ層の下は、砂質土（Ⅳ a層）および花崗岩の風化礫層（Ⅳ b層）があり、自然堆積層と考えられる。

6 T

地表下40cmで性格不明のケーブルを検出したため、掘削を停止した。現地表面に伴う碎石を除去した直後にケーブルを検出したため、壁面図の記録はとっていない。



第9図 新病院建設事業計画地 トレンチ土層断面図（1：40）

表8 新病院建設事業計画地 各トレンチ所見

トレンチ No	規模(長さ×幅 ×最大深さ, 単 位:m)	調査所見
1 T	5.0 × 1.0 × 2.0	<p>《東壁》</p> <p>I a 層 ぶい黄橙色 (10YR7/3) 細粒砂…現地表面に伴う造成土 ※上面にアスファルト・砕石</p> <p>I b 層 暗青灰色 (5PB4/1) 細粒砂、5.0cm大の礫混じる。</p> <p>I c 層 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粗粒砂</p> <p>I d 層 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗粒砂、下部に一辺 1.0 m 程度のコンクリートあり。 厚さは不明。コンクリートは旧広島鉄道病院に係る建物基礎もしくは地盤改良に伴う構造物と考えられる。</p> <p>II a 層 ぶい黄褐色 (10YR5/3) 細粒砂…近現代の整地層</p> <p>II b 層 ぶい黄褐色 (10YR4/3) 細粒砂…近現代の整地層</p> <p>III a 層 暗灰色 (N3/) 粘性細粒砂、下部に青灰色 (5BG6/1) 細粒砂が薄く堆積 (厚さ 1.0cm 程度)。…近現代の旧地表面 (東練兵場跡の地表面の可能性あり)</p> <p>III b 層 黒褐色 (10YR2/2) 粗粒砂、トレンチを横断する直径 5.0cm 程度の鉄製配管あり …鉄製配管の設置に伴う掘り込み</p> <p>IV a 層 ぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂質土…自然堆積層</p> <p>IV b 層 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土 (明黄褐色 [10YR5/1] 粗粒砂ブロック混じり) …自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>
2 T	5.0 × 1.0 × 2.4	<p>《東壁》</p> <p>I 層 ぶい黄橙色 (10YR7/3) 細粒砂…現地表面に伴う造成土 ※上面にアスファルト・砕石</p> <p>III a 層 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粗粒砂 …近現代の旧地表面 (東練兵場跡の地表面の可能性あり)</p> <p>III b 層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗粒砂 (明黄褐色 [10YR7/6] 砂質土混じり)、5.0cm 大の礫を多く含む。鉄製棒状部品の小片あり。…近現代の整地層</p> <p>IV 層 明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土…自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>
3 T	5.0 × 1.0 × 2.0	<p>《東壁》</p> <p>I 層 ぶい黄橙色 (10YR7/3) 細粒砂…現地表面に伴う造成土 ※上面にアスファルト・砕石</p> <p>II a 層 褐灰色 (10YR5/1) 細粒砂 (上面に明黄褐色 [10YR6/6] 細粒砂) …近現代の旧地表面</p> <p>II b 層 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂…近現代の整地層</p> <p>III a 層 暗灰色 (N3/) 粘質細粒砂、上面に薄い木片多量に混じる …近現代の旧地表面 (東練兵場跡の地表面の可能性あり)</p> <p>III b 層 青灰色 (5BG6/1) 細粒砂、固くしまる…近現代の整地層</p> <p>IV a 層 ぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂質土…自然堆積層</p> <p>IV b 層 黒色 (N2/) 粘質細粒砂、水分含む、黒泥層…自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>

トレンチ No	規模 (長さ×幅 ×最大深さ, 単 位:m)	調査所見
4 T	5.0 × 1.0 × 2.0	<p>《東壁》</p> <p>I 層 にぶい黄橙色 (10YR7/3) 細粒砂…現地表面に伴う造成土 ※上面にアスファルト・砕石</p> <p>III 層 暗青灰色 (5B4/1) 細粒砂、トレンチを横断する直径5.0cm程度の鉄製配管あり。木片あり…近現代の整地層</p> <p>(I層が崩れやすく、これ以上の掘削は危険になったため、掘削停止)</p> <p>出土遺物なし</p>
5 T	5.0 × 1.0 × 1.9	<p>《東壁》</p> <p>I 層 にぶい黄橙色 (10YR7/3) 細粒砂…現地表面に伴う造成土 ※上面にアスファルト・砕石</p> <p>II a 層 黒色 (5Y2/1) 粗粒砂、1.0～2.0cm 大の炭化木片多量に含む。溶結したガラス片や鉄塊あり。…近現代の整地層</p> <p>II b 層 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘質細粒砂…近現代の整地層</p> <p>III 層 灰色 (N5/) 細粒砂、上面と下面ににぶい褐色 (7.5YR6/3) 細粒砂が薄く堆積する (厚さ1.0cm程度)。 …近現代の旧地表面 (東練兵場跡の地表面の可能性あり)</p> <p>IV a 層 褐灰色 (7.5YR4/1) 砂質土…自然堆積層</p> <p>IV b 層 明黄褐色 (10YR7/6) 砂質土、10.0cm 大の風化した礫を多く含む。 …自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>
6 T	5.0 × 1.0	地表下40cm程度で性格不明のケーブルを検出したため、掘削停止。



a 1～4T 調査前全景（西から）



b 5・6T 調査前全景（西から）



a 1 T (南西から)



b 1 T東壁Ⅲ a・Ⅲ b層 (西から)



c 1 T東壁 (西から)



a 2 T (南から)



b 2 T東壁 (南西から)



c 3 T (南から)



d 3 T東壁 (西から)



a 4 T (南西から)



b 4 T東壁 (南西から)



c 5 T (南から)



d 5 T東壁 (西から)

3 都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘・確認調査

所在地：東広島市西条町寺家

調査目的：都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲確認

開発事業者：広島県西部建設事務所

調査年月日：令和6年3月11日、令和6年3月13日～3月15日

調査対象面積：約1,750㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

令和5年度に調査依頼を受けた範囲の一部について、試掘・確認調査を実施した。

今回の調査対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地（青谷2号遺跡）の範囲内および隣接地に当たる。トレンチ8か所を設定し、令和3・4年度トレンチ番号からの連番で16～23Tとした。

調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。16～19Tは丘陵の緩斜面に位置するが、後世の改変で旧地形は削平されていた。20～23Tは谷地形であることを確認した。

層序

基本層序は次のとおりである。

I層…現地地形に伴う表土、造成土、水田耕作土、床土。

II層…現代以降の旧表土、旧水田耕作土、床土、旧水田に伴う地下配管の影響によるグライ層。

III層…自然堆積層。丘陵緩斜面の16～19Tは明褐色粗砂の花崗岩風化層、谷地形の20～23Tは水成堆積層を検出している。



第10図 都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘・確認調査地点位置図（1：25,000）
（国土地理院1：25,000地形図「安芸西条」図幅を使用）



第11図 都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地トレンチ位置図(1:1,000)

各トレンチの概要

16T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地(青谷2号遺跡)内であり、旧地形は北西から南東へ下る丘陵緩斜面と考えられる。現地形は緩斜面をカットした平坦地形であり、畑として利用されていた。

調査の結果、表土(I層)直下で自然堆積層(Ⅲ層)を検出した。現地形への地形改変により、旧地形は削平されたと考えられる。

17T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地(青谷2号遺跡)内であり、旧地形は北西から南東へ下る丘陵緩斜面と考えられる。現地形は緩斜面をカットした平坦地形である。16Tから25m程度低くなっている。

調査の結果、表土(I a層)及び造成土(I b層)直下で自然堆積層(Ⅲ層)を検出した。現地形への地形改変により、旧地形は削平されたと考えられる。

18T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地(青谷2号遺跡)内であり、旧地形は北西から南東へ下る丘陵緩斜面と考えられる。現地形は緩斜面をカットした平坦地形である。16Tから25m程度低くなっている。

調査の結果、表土(I a層)及び造成土(I b層)直下で自然堆積層(Ⅲ層)を検出した。現地形への地形改変により、旧地形は削平されたと考えられる。

19T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地（青谷2号遺跡）の境界付近であり、旧地形は北西から南東へ下る谷部の緩斜面と考えられる。現地形は緩斜面をカットした平坦地形である。17・18Tから4.0m程度低くなっている。

調査の結果、表土（Ⅰa・Ⅰb層）及び現代の旧表土（Ⅱ層）を確認し、その下から自然堆積層（Ⅲ層）を検出した。現地形への地形改変により、旧地形は削平されたと考えられる。

20T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地（青谷2号遺跡）の隣接地であり、旧地形は北から南へ延びる谷部である。現地形は棚田として造成されている。19Tから2.0m程度低くなっている。

調査の結果、水田耕作土・床土（Ⅰa・Ⅰb層）及び現代の旧水田耕作土（Ⅱa層）の下は自然堆積層（Ⅲa・Ⅲb層）であった。湧水により掘削を停止している。

なお、旧水田耕作土（Ⅱa層）の下部に管のようなものが存在した隙間が存在し、その隙間の周囲に小枝や木片が詰まっていた。また、その部分の下層（Ⅱb層）はグライ層であった。このことから、旧水田耕作土の下部に地下配管が存在し、その下層が水の影響を常時受けたことによりグライ化したものと考えられる。

21T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地（青谷2号遺跡）の隣接地であり、旧地形は北から南へ延びる谷部である。現地形は棚田として造成されている。19Tから2.0m程度低くなっている。

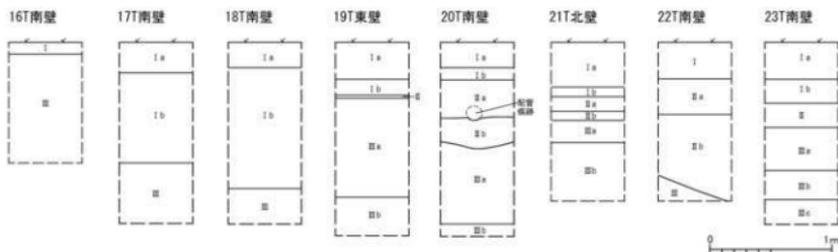
調査の結果、水田耕作土・床土（Ⅰa・Ⅰb層）及び現代の旧水田耕作土・床土（Ⅱa・Ⅱb層）の下は自然堆積層（Ⅲa・Ⅲb層）であった。湧水により掘削を停止している。

22T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地（青谷2号遺跡）の隣接地であり、旧地形は北から南へ延びる谷部である。現地形は棚田として造成されている。20・21Tから0.5m程度低くなっている。

調査の結果、水田耕作土（Ⅰ層）及び現代の旧水田耕作土（Ⅱa層）の下は自然堆積層（Ⅲ層）であった。湧水により掘削を停止している。

なお、旧水田耕作土（Ⅱa層）の下層（Ⅱb層）に20TⅡb層と同様のグライ層を確認している。20Tと同様の理由でグライ化したものと考えられる。



第12図 都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 トレンチ土層断面図 (1:40)

23T

遺構・遺物は無く、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地（青谷2号遺跡）の隣接地であり、旧地形は北から南へ延びる谷部である。現地形は棚田として造成されている。20・21Tから0.5m程度低くなっている。

調査の結果、水田耕作土・床土（I a・I b層）及び現代の旧水田耕作土（II層）の下は自然堆積層（III a～III c層）であった。湧水により掘削を停止している。

表9 都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 各トレンチ所見

トレンチ No	規模(長さ×幅 ×最大深さ, 単 位:m)	調査所見
16 T	10.0 × 1.0 × 1.0	<p><南壁> I層 黒色(7.5YR2/1)粗粒砂…表土 III層 明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂(明褐色[7.5YR7/1]粗粒砂ブロック混)、 風化した花崗岩がブロック状に入る。しまりは弱い。 …自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>
17 T	5.0 × 1.0 × 1.5	<p><南壁> I a層 黒色(7.5YR2/1)粗粒砂…表土 II b層 灰褐色(7.5YR4/2)粘質細粒砂…現地形に伴う造成土 III層 明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂(明褐色[7.5YR7/1]粗粒砂ブロック混)、 風化した花崗岩がブロック状に入る。固くしまる。 …自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>
18 T	5.0 × 1.0 × 1.5	<p><南壁> I a層 黒色(7.5YR2/1)粗粒砂…表土 I b層 明褐色(7.5YR7/2)粗粒砂(明褐色[7.5YR5/6]粗粒砂混)、固くしまる。 …現地形に伴う造成土 III層 明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂(明褐色[7.5YR7/1]粗粒砂ブロック混)、 風化した花崗岩がブロック状に入る。固くしまる。 …自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>
19 T	6.0 × 1.0 × 1.6	<p><東壁> I a層 黒色(7.5YR2/1)粗粒砂…表土 I b層 明褐色(7.5YR5/8)粗粒砂(上部に褐色[7.5YR4/3]粘質土が入る)、固く しまる。…現地形に伴う造成土 II層 黒色(7.5YR2/1)アスファルトと碎石を混ぜたものか。固くしまる。 …現代以降の旧地表面 III a層 明褐色(7.5YR5/6)粗粒砂(明褐色[7.5YR7/1]粗粒砂ブロック混)、固く しまる。…自然堆積層 III b層 明褐色(7.5YR7/1)粗粒砂、花崗岩風化岩盤…自然堆積層</p> <p>出土遺物なし</p>

トレンチ No	規模（長さ×幅 ×最大深さ、単 位:m）	調査所見
20 T	4.0 × 1.0 × 1.6	<p><南壁></p> <p>I a 層 黒褐色（7.5YR3/2）粗粒砂…水田耕作土</p> <p>I b 層 明褐色（7.5YR5/8）粘質細粒砂…床土</p> <p>II a 層 黒褐色（7.5YR3/2）粗粒砂…旧水田耕作土 下部に管が存在したような隙間が存在し、水が流れてくる。隙間の周囲には枝木や木片が多く混じる。地下配管の痕跡か。</p> <p>II b 層 明緑灰色（10G7/1）粘質細粒砂、グライ層。 II a 層下部にある地下配管による影響でグライ化。</p> <p>III a 層 明褐色（7.5YR5/8）細粒砂とにぶい黄橙色（10YR7/2）粘質細粒砂が互層状堆積。…自然堆積層</p> <p>III b 層 灰白色（10YR7/1）粘質細粒砂…自然堆積層 （湧水のため、掘削停止） 出土遺物なし</p>
21 T	5.0 × 1.0 × 1.3	<p><北壁></p> <p>I a 層 黒色（10YR1.7/1）粘質細粒砂…水田耕作土</p> <p>I b 層 黄褐色（10YR5/6）粘質細粒砂…床土</p> <p>II a 層 褐灰色（10YR4/1）粘質細粒砂…旧水田耕作土</p> <p>II b 層 明褐色（7.5YR5/8）粘質細粒砂…旧水田の床土</p> <p>III a 層 にぶい褐色（7.5YR6/3）粘質細粒砂…自然堆積層</p> <p>III b 層 灰褐色（7.5YR6/2）粗粒砂…自然堆積層 （湧水のため、掘削停止） 出土遺物なし</p>
22 T	3.0 × 1.0 × 1.3	<p><南壁></p> <p>I 層 黒色（10YR1.7/1）粘質細粒砂…水田耕作土</p> <p>II a 層 褐灰色（10YR4/1）粘質細粒砂…旧水田耕作土</p> <p>II b 層 明緑灰色（10G7/1）粘質細粒砂、グライ層。 20 T II b 層と同様の性格と考えられる。</p> <p>III 層 明褐色（7.5YR5/8）細粒砂とにぶい黄橙色（10YR7/2）粘質細粒砂が互層状堆積。…自然堆積層 （湧水のため、掘削停止） 出土遺物なし</p>
23 T	4.0 × 1.0 × 1.5	<p><南壁></p> <p>I a 層 黒色（10YR1.7/1）粘質細粒砂…水田耕作土</p> <p>I b 層 黄褐色（10YR5/6）粘質細粒砂…床土</p> <p>II 層 褐灰色（10YR4/1）粘質細粒砂…旧水田耕作土</p> <p>III a 層 灰黄褐色（10YR5/2）砂質土…自然堆積層</p> <p>III b 層 褐灰色（10YR5/1）粘質細粒砂…自然堆積層</p> <p>III c 層 黒色（N2/）粘質細粒砂、黒泥層…自然堆積層 （湧水のため、掘削停止） 出土遺物なし</p>



a 16T 調査前全景（北西から）



b 17・18T 調査前全景（北西から） ※遠方に20～23Tを臨む



a 16T (北西から)



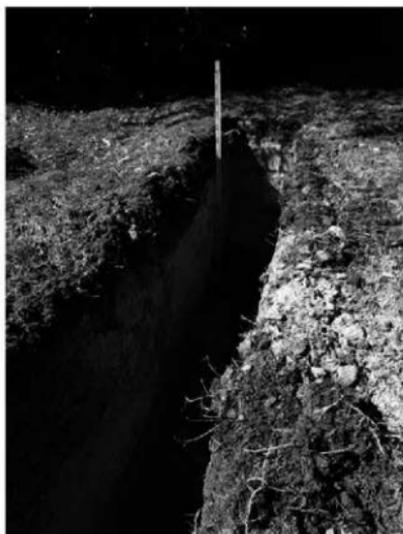
b 16T南壁 (北西から)



c 17T (東から)



d 17T南壁 (東から)



a 18T (東から)



b 18T南壁 (東から)



c 19T (南から)



d 19T東壁 (南から)



a 20～23T 調査後全景（南から）



b 20～23T 調査後全景（西から）



a 20T (東から)



b 20T南壁 II a層下部の配管痕跡 (東から)



c 21T (南東から)



d 21T東壁 (南から)



a 22T (東から)



a 22T (東から)



c 23T (北東から)



d 23T南壁 (北から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	れいわごねんど ひろしまけんないせきはくつちょうさ(しょうさいふんぶちょうさ)ほうこくしょ							
書名	令和5年度広島県内遺跡発掘調査(詳細分布調査)報告書							
編著者名	森本直人							
編集機関	広島県教育委員会事務局管理部文化財課							
所在地	〒730-8514 広島県広島市中区基町9番42号 TEL082-513-5023							
発行年月日	西暦2025年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	遺跡面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
広島城跡・ 陸軍関連遺跡 (西練兵場跡)	広島県広島市 中区基町	34100	860	34° 23' 46"	132° 27' 30"	20230703～ 20230713	1,736.94	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
広島城跡・ 陸軍関連遺跡 (西練兵場跡)	城館・その他	近世・近代		溝状遺構、土坑、柱穴		陶磁器、瓦質土器、瓦、 鉄製品		
要 約	大規模開発事業等に先立ち、令和5年度に実施した埋蔵文化財の分布調査及び試掘・確認調査の成果等を収録した。令和5年度に現地踏査等28件、試掘・確認調査3事業3地点を実施した結果、埋蔵文化財包蔵地1か所を確認した。							

令和5年度
広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

編集 広島県教育委員会事務局管理部文化財課
広島県広島市中区基町9番42号
TEL 082-513-5023
発行 広島県教育委員会
発行日 令和7年3月31日
印刷 株式会社呉精版印刷